

今日の日本OR学会

おめでとうございます！ OR学会60周年！！

池上 敦子

2年前まで、本誌「オペレーションズ・リサーチ」の編集委員長を務めさせていただいたということで、学会60周年記念号にお祝いを述べさせていただきます。

OR学会の魅力の持続と益々のご発展を祈念し、心よりお祝い申し上げます！

実は、本誌は2年前の1月、一足先に60巻発行を迎え、記念号とともに表紙も新たになりました。本誌の60年については、そのときに紹介させていただいたので、本号では、学会機関誌「オペレーションズ・リサーチ」編集委員、そして編集委員長（だったとき）の視点で、思い出をご紹介してみようと思います。

もう4年半前のことになりますが、本誌の編集委員長のお話があったとき、光栄と思いつつも大変なことになったと思いました。この編集委員長は、OR学会の中で最もハードな仕事であり、夜も眠れない日が続くらしいという話をきいていたからです。毎月特集を組み、それを無事に発行するだけでなく、いかに魅力的なものとして作り上げていけるか、という、とても責任のある任務だと思ったからです。真っ白なページばかりの「オペレーションズ・リサーチ」の夢にうなされるという話もききました。また、多くの編集委員長が経験したであろうこととしては、原稿が揃わない危機から「自らが原稿を書く」ということが挙げられると思います。

一方、研究に関して、ほぼ独学でやってきた身としては、知らない内容を初めて勉強するための教科書としても、本誌はとても大事な存在でした。先生方からいただいたものも含め、古くからの「オペレーションズ・リサーチ」を大事に揃えています。特集名や記事のリスト（通常、どの巻も12月号に載せてあります）は何度見ても魅力的なものばかりです。さらに、歴代の素晴らしい編集委員長のあとにその任務を引き受けるには、かなりの勇気がいったのですが、自分にとっ

て、OR学会も本誌「オペレーションズ・リサーチ」もとても大事な感謝すべき存在でしたので、ええいっ！と、清水の舞台から飛び降りてしまったわけです。

編集委員長の仕事が始まると、私の研究室のミーティング用のテーブル（約180cm四方）は、2年間、ずっと3カ月分原稿が積んでありました。初稿が送られてきたときには、特集のオーガナイザと担当編集委員と一緒に読み込みます。できる限り、執筆者の方々の表現の特徴やご希望を尊重し、形式にはあまりこだわらないで進めました。その後、ゲラを作成し、何回か校正を繰り返し、最後の日は、ほんの1、2時間で意思決定して印刷に入ります。そして、ほっとした瞬間に、続号の進捗状況に冷や汗をかいたりするのです。この2年間は、前・編集委員長をはじめ、学内外を問わず本当に多くの方に助けていただきました。

2013年4月から2年間の編集委員長任務でしたが、テーマ決めに関わった特集は、2014年の1月号からのおおよそ2年分になります。2014年1月号は「研究の楽しさ」という特集でした。切迫したスケジュールの中で、結局、自身も記事を書くことになった特集号で思い出深いです。

編集委員長の役得は、すべての原稿を読者より3カ月も早く読むことができることです。ちょっと分野が違ったり、そのときの自分の興味と違う、いつもならタイトルしかチェックしなかった記事もとことん読み込みました。そして、新しい発見や興味を見つけることがたくさんありました。なによりも、執筆者の方々と議論の機会をいただけたことが、楽しく最大の役得だったと思います。さらに、綺麗な文章に出会ったときには心から感動しました。難しい研究内容も心地よく心に入ってきて、研究者心を幸せにする文章があるのだなあという経験もしました。

役得といえば、編集委員長に限らず、編集委員も非常に素晴らしい経験ができる任務ですので、若い学会員の方々にも、ぜひ積極的に経験していただきたいと思います。

ここで、自分の忘れられない経験を紹介させていただきます。

2013～2014年度機関誌編集委員長

いけがみ あつこ

成蹊大学

〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1

きたいと思います。かつて編集委員だった頃のことです。編集委員会の企画会議で、「モデリング特集」を組ませていただきたいと提案し、実現しました。2005年4月号「モデリング—最適化モデリング—」と8月号「モデリング—広い視野を求めて—」です。特集の目次を、図1と図2に付けます。

怖さ知らずの当時の私は「あの先生のモデリングのお話がうかがいたい」と、次々に電話作戦に出ました。普通なら直接ご挨拶するにも勇気が必要な先生方に「どうしてもいい特集にしたいんです!」とお願いすると、奇跡と思えるくらいほとんどの方々に快諾いただきました。今考えると、失礼もあったのではないかと、ドキドキするときもあります。本当に素晴らしい特集になり、編集委員をやっていたよかったと心から思う経験です。

4月号の編集後記には「とうとう昔からの夢だった特集を企画することができました。今月号と8月号にわたるモデリング特集は、かなりの自信作です」と述べています。

8月号では、赤池弘次先生が記事を書かれるときに、何度も感想や意見をきいてくださり、貴重かつ光栄なお時間をたくさんいただきました。編集委員としての素晴らしい経験の余韻の中で、編集後記には、以下のように書いています。

- 以前、赤池弘次先生の「研究者と運鈍根」というエッセイを読ませて頂きました。研究者にとって、良い問題と巡り合った適した視点を得る「運」、すぐなにもかも分かったと思わないことの大切さ「鈍」、集中した意識の継続の積み重ね「根」が大切であることが紹介されていました。今回の特集の最後に私自身の原稿も載せさせて頂きましたが、ナース・スケジューリングに巡り合った「運」、能力の問題で、すぐは何も分からなかった「鈍」、ひたすら頑張った「根」と、非常におこがましくも勝手に関連付けて幸せに浸っております。私の運鈍根の「根」が多少作用して「見えなかったものが見えてくる」までの様子を少しでもご報告できたらと思います。
- 魅力的な特集が出来上がっていくとどんどん欲が出てきます。またいつか今回のような素晴らしい「モデリング特集」の続きが実現できたら、と夢がふくらみます。今回の特集において、著者の先生方と楽しい議論をさせて頂けた「運」を心より感謝致します。

これらの特集の評判がとてよかったため、その後、2007年4月号「モデリング—さまざまな分野、さまざまな視点から—」が組まれました。図3にその目次を

オペレーションズリサーチ

Vol. 50 No. 4 2005

特集 モデリング—最適化モデリング—

特集にあたって	池上 敦子 220
モデリング考	伊 戸 正 大 221
モデルが見えるとき	森 戸 晋 225
「問題解決エンジン」群とモデリング	茨 木 俊 秀 229
意思決定支援システムの開発と統合モデリング	野 木 尚 次 233
数理計画法の実用モデリングについて	草 刈 君 子 238
数理計画のためのモデリングツールの開発	山 下 浩 243
マッチングモデル	田 村 明 久 247
除雪—南国育ち、雪に惑う—	前 田 英 次 郎 251
モデリングのための覚え書き	久 保 幹 雄 255
シミュレーションモデルのアートと標準化	相 澤 一 子 259

図1 2005年4月号「モデリング—最適化モデリング—」

オペレーションズリサーチ

Vol. 50 No. 8 2005

特集 モデリング—広い視野を求めて—

特集にあたって	池上 敦子 518
モデリングの技：ゴルフスイングの解析を例として	赤 池 弘 次 519
モデル学は可能か	木 村 英 紀 525
ORモデルと経済学モデル	今 野 浩 529
理論家にとっての数理モデル	小 島 政 和 533
むだばなし「水とモデル」	柳 井 浩 537
モデルの効用	池 澤 清 幸 541
ビジネスモデリング	錦 木 久 敏 545
結晶性光ファイバの吸収率計算モデル	石 渡 裕 政 551
時差出勤のパラドックス	田 口 東 555
モデリング雑感	上 谷 隆 560
モデリングを通して見えた世界	池上 敦子 564

図2 2005年8月号「モデリング—広い視野を求めて—」

オペレーションズリサーチ

Vol. 52 No. 4 2007

特集 モデリング—さまざまな分野、さまざまな視点から—

特集にあたって	池上 敦子、土谷 隆 186
OR on ORの思い出—OR活動とIE活動の対比による考察—	川 瀬 武 志 187
「モデル」についての—数学者の雑感—	深 谷 賢 治 192
シャノンの定理を物理のモデルを通して眺める	榊 島 祥 介 196
多数決規則の粒子系と確率モデル	伊 藤 崇 明 201
ナノの世界の最適化モデル	
—原子スケール摩擦のシミュレーション—	
	佐々木成剛、三浦 清治 206
海洋モデルとデータ同化を用いた海況予報	藤 地 政 文、磯 水 典 久 211
モデリング—直流磁気シールドの開発を例に取って—	
	笹 川 卓 216
ベイズネットワークによる遺伝子ネットワークの推定	井 元 清 敏 221
列挙を用いたモデリングの進展	宇 野 毅 明 225
老子が見た最適化モデル	中 森 眞 理 雄 231

図3 2007年4月号「モデリング—さまざまな分野、さまざまな視点から—」

示しますが、モデリング特集がさらなる広がりを見せているのがわかっていただけだと思います。

そして、さらなるうれしい奇跡は、OR学会60周年記念事業として、これらの特集に基づく「シリーズ：最適化モデリング」を、近代科学社さんから出していただくことになりました。オムニバスである第1巻と第5巻は絶賛発売中にて、すでに多くの方に読んでいただいていると思います。これらの表紙を図4と図5に紹介します。

私の編集委員活動から（多少無理無理ながらも）よ

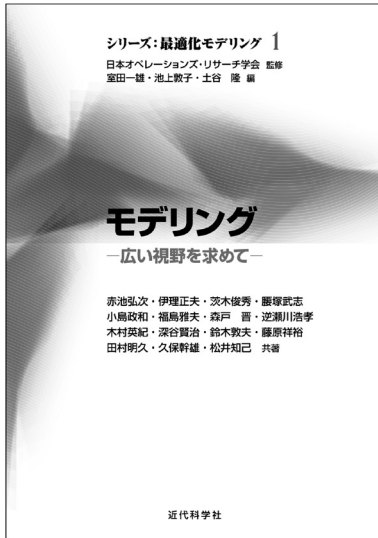


図4 シリーズ：最適化モデリング 1「モデリング—広い視野を求めて—」

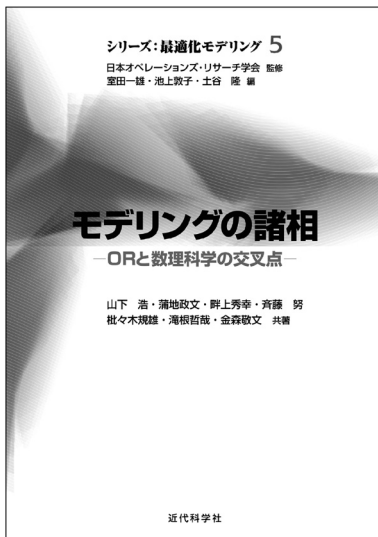


図5 シリーズ：最適化モデリング 5「モデリングの諸相—ORと数理科学の交差点—」

うやく学会創立60周年も話題に結びつけることができましたところで、この場をお借りし、本シリーズの第2, 3, 4巻の出版が遅れていることを、お詫びさせていただきます。執筆者一同、頑張りますので、お手元に届くまでご支援ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いたします。ちなみに、本シリーズは、以下のような構成（予定）になっています。

1. モデリング—広い視野を求めて—
2. 鉄道ネットワーク—公共輸送の最適化モデリング—
3. ナース・スケジューリング—問題把握とモデリング—
4. 整数計画—定式化モデリング—
5. モデリングの諸相—ORと数理科学の交差点—
6. モデリング論—数理・アルゴリズム・モデリング—

実は、私が（もしくは、読者の皆さんが）読みたい「モデリング」のすべてを、三つの特集や「シリーズ：最適化モデリング」に載せられたわけではありません。たまたまお願いしたときのご都合の悪かった先生方や、切望していながらも、お願いのタイミングを逃してしまった先生方がいらっしゃいます。再度モデリング特集を組ませていただく機会があれば、また違ったモデリング特集を実現したいと思いますし、若い編集委員の方々にそれを企画していただけたらうれしいです。

最後に、元・編集委員長として、お詫びとお礼があります。お詫びは、各号、各原稿で、言葉や記法の統一を厳密に行わなかったことです。前述させていただいたとおり、執筆者の方々の特徴を優先したく、自分なりの一貫性を貫かせていただきましたが、多少乱暴だったときがあったかもしれません。

一方、大きな感謝は、OR学会の会長、理事会、そして、会員の皆さんの励ましです。編集委員長を務める間、会う方ごとに、励ましの言葉をいただきました。「編集委員会が面白いと思える特集を組んでください」「自由に伸び伸びやってください」「特集、面白かったですね」というお言葉に支えられ、編集委員会は本当に盛り上がりました。実際、編集委員の方々の素晴らしいアイデアで、特集テーマに困ることは全くありませんでしたし、企画会議は、とても楽しい時間でした。一緒に楽しく盛り上がってくださった編集委員会メンバーにも心から感謝しています。

ハードながらも、このような貴重かつ楽しい経験の機会をいただいたことに、OR学会、そして関係者の皆さんに御礼申し上げます。そして、最後にもう一度：**創立60周年、誠におめでとうございます！**